

知りたいな 赤十字のマークのこころ



このマークには、どんな「こころ」がこめられているのかしら？

[そもそものはじまり]

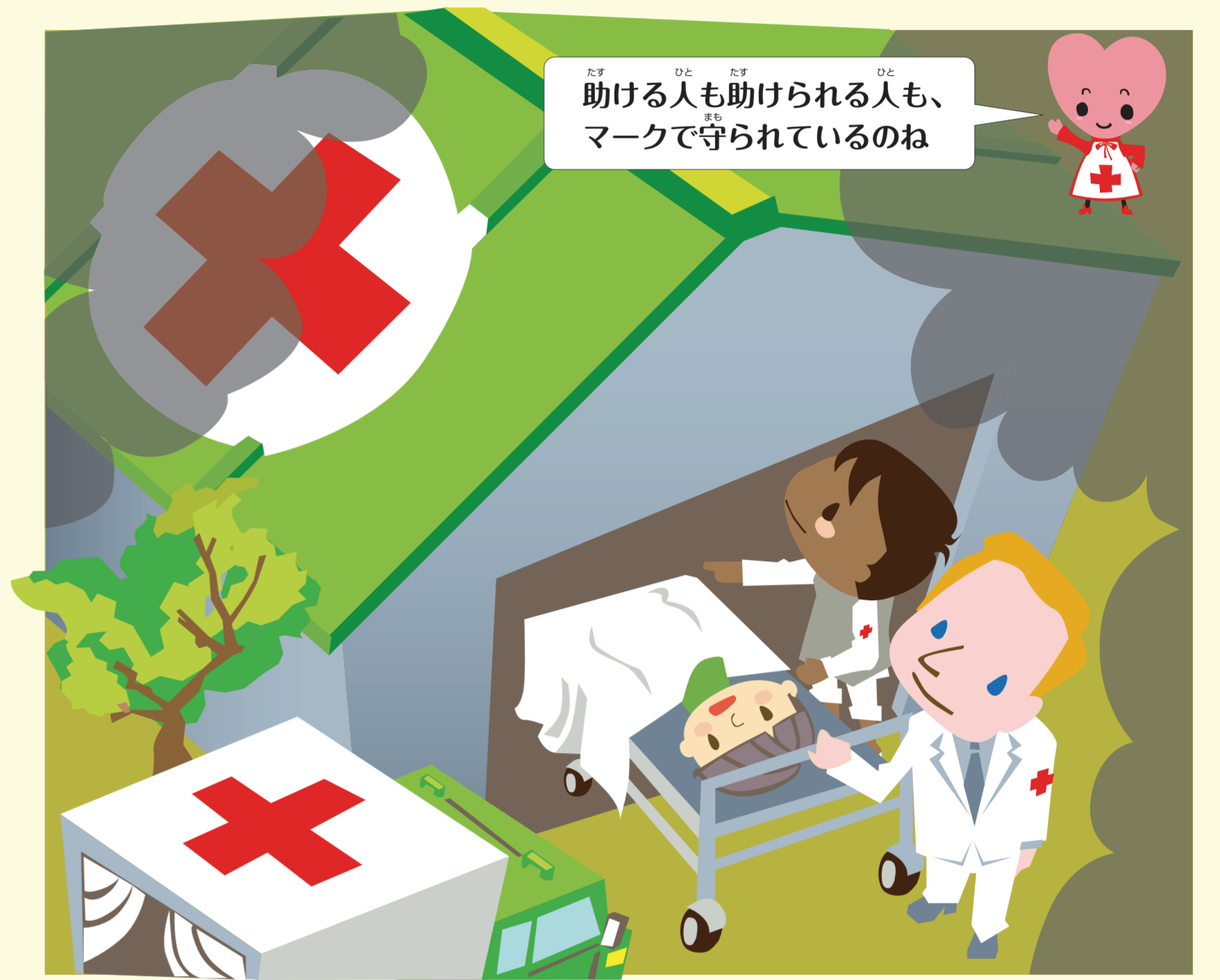
1859年、アンリー・デュナンは戦場にいました。



これが赤十字のはじまりなのね

[マークのちからが人々を守る]

攻撃してはいけないことを、誰もが知っています。



助ける人も助けられる人も、マークで守られているのね

[この「こころ」がたくさんの人に伝わって…]



戦火の中でも

災害の地でも



もしあなたが、戦争や災害にまきこまれたら、何をして欲しい？

あなたのマークにも赤十字が。ふだんの生活で、あなたができることは何でしょう？



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



本教材のねらい

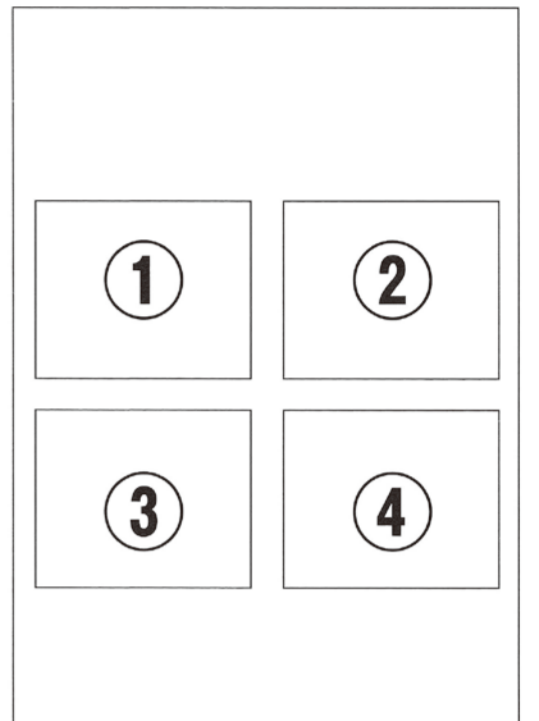
青少年赤十字マークにも含まれている赤十字のマーク。これはどのような意味をもつマークなのでしょう。日本赤十字社の救護車両、赤十字病院、献血ルーム…もちろんこうしたところにも使われていますが、そもそもはひとりのスイス人が戦争による惨状を目の当たりにして始めた救援活動から生まれ、戦場で救援活動をする人々を保護する目的で使われ、その後も、様々な困難な状況の中で、苦しんでいる人を救いたいと行動する人々を守り、その思いを人々にひろげてきたマークでもあります。

今回はこの「赤十字マーク」を改めてとりあげ、その誕生から現代の青少年赤十字活動にまで、「共通する思い」に焦点をあてます。

本教材の使い方(例)

本教材の使い方の1例をご紹介します。本教材は、赤十字マークを共通のテーマとして、4つのポイントから構成されています(図および下記参照)。学習の中心となるポイントに合わせてお使いください。

- ①赤十字のはじまり
- ②赤十字マークのもつ意味
- ③赤十字のさまざまな活動
- ④あなたの活動



- 赤十字マークの国際的な取り決めを中心に学ぶ → ②
- 赤十字のおこりやその活動を中心に学ぶ → ① ③
- 赤十字(マーク)の学習から、ふだんの青少年赤十字活動を再確認する → ④



参考資料



資料で見る青少年赤十字
<http://www.jrc.or.jp/activity/youth/document/>



防災教育
<http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/>



1 導入

- ここはどこだろうか?どんな状態にあるだろう?
- アンリー・デュナンは何をしているんだろう?

赤十字のはじまりは、1859年北イタリアにあります。ソルフェリーノの戦いによる負傷兵に対して救護活動に参加したアンリー・デュナンは、その活動後に①敵味方の差別なく負傷兵を助けるための民間の救護団体の設立、②その組織が活動できるよう国際的な取り決めを結ぶことを提唱します。これが後に、赤十字の組織とジュネーブ条約に発展していきます。

「いのちを守りたい、苦痛を軽減したい、一人ひとりを人間として尊重したい」という思いが赤十字をうみました。

2 赤十字マークの意味

- 赤十字マークを身につけた人は何をしているところだろう?
- 「マークのちからが人々を守る」ってどういう意味?

このようにして赤十字マークは組織を示すマークという意味と、戦争や紛争で傷ついた人々を救護する軍の衛生部隊や赤十字の救護員・施設等を中立的なものとして攻撃から守るために使用するマークの2つの意味で使われるようになります。

したがって、紛争地域等でこの「赤十字マーク」を掲げている病院や救護員などには、絶対に攻撃を加えてはなりません。これはジュネーブ条約によって厳格に定められています。(第1ジュネーブ条約第19条および第38条、第2追加議定書第12条)

このような赤十字マークの尊重は、ひとえに、紛争地域等で「負傷した兵士や民間人のいのちを守りたい、その苦痛を軽減したい」という思いを実現することができるように、国際的に定められたルールなのです。

【考えてみましょう】

- 赤十字は武器を持って戦場に救護に行くのでしょうか。
- ふだんから、病院や薬局、薬箱等に多くの赤十字マークが使われている場合、戦争・紛争時の救護活動にどのような問題が起こりうるのでしょうか。

【さらに学ぶ】

■3つの標章

●多くのイスラム教国は、「十字はキリスト教を連想させる」として、赤十字の代わりに「赤新月」を使用していますが、使用に際しての条件、効力などは「赤十字」とまったく同一です。また、平成19年1月14日にジュネーブ条約の第3追加議定書が発効し、「赤十字」と「赤新月」に加えて、新たな標章が追加されました。新たな標章は、白地に赤いひし形を配したもの(レッドクリスタル)となっています。



3 赤十字の活動

- 赤十字マークをつけた人は何をしているのだろうか?
- 戦争以外で、たくさんのけが人や病気が発生したり、食べ物や飲み物がなくなったりするのはどんなときだろう?

赤十字の、「人々のいのちを守りたい、苦痛を軽減したい」という思いは、戦争・紛争だけでなく、災害救護やその他の平時の活動にもひろがっていきます。自然災害による被災に苦しむ人々、病気に苦しむ人々、貧しさに苦しむ人々の「いのちを守る、苦痛を軽減する」ための活動にまで、赤十字はその活動の幅をひろげてきています。

こうしてさまざまな活動を行うようになった赤十字ですが、その思いは赤十字マークが生まれた原点と共通しています。人々のいのちを守ること、苦痛を軽減すること、一人ひとりを人間として尊重することがその活動の原動力です。

【調べてみましょう】

- 日本赤十字社はどのような活動をしているのでしょうか。
- 世界に192社ある赤十字・赤新月社の中から1つを選び、どのような活動をしているか調べてみましょう。

4 あなたの活動

- 青少年赤十字マークをつけた仲間は何をしているところだろう?
- なぜこんな活動をしているのかな?

赤十字の共通した思い、「いのちを守りたい、苦痛を軽減したい」という一人ひとりを人間として尊重する思いは、青少年赤十字活動にも共通しています。実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」には具体的にその思いが反映されています。つまり、自分と周りの人のいのちと尊厳を大切にすることや大切にする方法を知ること(健康・安全)、世界の人々と違いを大切にしながら一緒に生きていくことを知ること(国際理解・親善)、そして、社会の一員として周りの人のために自分から行動を起こせること(奉仕)です。

こうした思いで青少年赤十字活動をすすめているメンバーも、そして今まさに紛争地域等で赤十字マークを身につけて活動している赤十字スタッフも、ともに共通した思いで活動しているのです。

【考えてみましょう】

- あなたの活動が、どのように「いのちを守る、苦痛を軽減する、一人ひとりを大切にすること」につながっているか、どうしたらつながっていくかを改めて考えてみましょう。

